

## 1. 日本人の三大死亡原因

厚生労働省の人口動態統計によると、ここ数十年の日本人の死因別死者数の第1位は癌、第2位は心筋梗塞、第3位は脳卒中となっている。これらは三大疾病と呼ばれ、日本人のなんと6割がこのいずれかにかかるとされている。ことに癌に関しては年間の死者数は32万人に及び、日本人の3人に1人が癌で死亡する計算となる。

## 2. 癌のステージ分類

ステージとは病期のこと。ステージ分類は癌の進行具合をステージからIVまで4段階に分けたもので、症状や治療開始後の5年生存率の分類に用いられる。胃癌の5年生存率はステージIで約90%、IIで約80%、IIIで約50%、IVで約10%とされる。大腸癌の5年生存率はステージIで約90%、IIで約80%、IIIで約65%、IVが約13%とされる。

進行する傾向がある分、助かる可能性も高いのですが、なんらかの外科手術をせざるを得ないので、何も症状のない段階から、自発的に診断を受けていただいた方が、失うものは少ないでしょう。

現代で大腸癌が増えている背景には、食生活が欧米化し、動物性脂肪などを好んで摂取をするようになったことが要因として挙げられます。予防としては、やはり日本古来のスローフードをお勧めします。かといって、素食

を好む高齢者の方でも大腸癌にかかる方もおられますので、これが絶対ではありませんが、予防はしたほうがいいでしょう。

**早期発見・早期治療の大切さ**

現段階での癌の治療法は、切除できるものは切除する、というのが原則です。今は、粘膜に局限していて、リンパ節転移を伴わないものに関しては、内視鏡での切除という方法も広く普及しております。早く発見すればするほど、お腹にメスを入れずに病変だけを取り除けますので、体への負担も少なく、社会復帰も速やかになり、その後の生活にもなんら影響を与えません。

早期の状態とは、厳密には粘膜あるいは粘膜下層に局限している状態をいいます。例えば、進行した状態でリンパ節に転移があったとしても助かる人も多いため、普段から検診をきちんと受けていただくことが何より重要だと考えていますが、異変を感じて足がすぐみ、受診を控えるようなことは、くれぐれもないようにお願いしたいところです。

これが辛いとおっしゃる患者さんも多く、それが検査のハードルを上げている一因にもなっています。

そこで、当院では小さなビジネスホテルのような個室をつくり、独立したトイレと液晶テレビ、ソファベッドを備えています。ゆっくりと検査を受けていただきたくらいです。検査を行うだけでなく、検査の苦痛を和らげることも、私も医師や医療スタッフの務めだと考えております。



を好む高齢者の方でも大腸癌にかかる方もおられますので、これが絶対ではありませんが、予防はしたほうがいいでしょう。

**辛い検査を和らげる工夫**

癌検診を受けるペースですが、年に1回は受けていただくことをお勧めしております。

ただし、集団検診の場合、便潜血検査が陰性だった方が、次の検診までに具合が悪くなったり、病院で検査をしたら進行癌だったというケースもありますので、内視鏡医にご相談していただく方が確実です。

大腸癌の検査は、検査当日に大量の検査剤を飲み、何度もトイレに行つて排便をしなければいけません。

この辛いとおっしゃる患者さんも多く、それが検査のハードルを上げている一因にもなっています。

そこで、当院では小さなビジネスホテルのような個室をつくり、独立したトイレと液晶テレビ、ソファベッドを備えています。ゆっくりと検査を受けていただきたくらいです。検査を行うだけでなく、検査の苦痛を和らげることも、私も医師や医療スタッフの務めだと考えております。



第1回

# 日本人死亡原因の第二位「癌」 検診による早期発見と早期治療を



安田クリニック 院長  
安田 肇次

浜松医科大学医学部医学科卒業。浜松医科大学附属病院第一外科勤務。聖隷浜松病院外科勤務。社団法人有隣厚生会富士病院外科勤務。新都市クリニック外科・消化器科勤務、内視鏡センター長。日本消化器内視鏡学会専門医。日本外科学会専門医。日本消化器外科学会認定医。マンモグラフィ検診精度管理中央委員会検診。マンモグラフィ読影認定医師。

◎安田肇次のMP医療相談所

## 発症と死亡率の高い胃癌

今回から、日本人の三大死亡原因の一つである癌にスポットを当て、医師としての立場からお話をさせていただきます。

まず、癌の中でも特に発症や死亡率の高い印象がある胃癌ですが、これは高分化型腺癌という比較的ゆっくり進行するものから、未分化癌といわれる進行が非常に早い病態までとさまざまです。ステージ分類別の生存率は、ほぼ均等に分かれることから、進行が早いケースも大腸癌に比べて多いともいえます。どの癌にもいえることですが、胃癌に初期段階での自覚症状はありません。胃に異常を感じる症状は胃潰瘍などの病態にもみられますので、早期

発見のために体の異変の有無に関わらず、定期健診をお勧めします。具体的な検査は、集団検診で行われる、バリウムを飲んでレントゲン撮影を行う胃透視が主ですが、早期診断を確定するため、最初から内視鏡を受けていただくという選択肢もあります。

## 女性の死亡原因の第二位、大腸癌

発生の総件数としては男性が多いものの、女性の死亡原因の第1位となっているのが大腸癌です。大腸癌は進行してくると便秘が酷くなり、たまにお通じがあっても下痢ばかりで血液が混じるなどの症状が現れます。やがて、腸閉塞になり嘔吐するようになります。他の癌に比べてゆっくり



進行する傾向がある分、助かる可能性も高いのですが、なんらかの外科手術をせざるを得ないので、何も症状のない段階から、自発的に診断を受けていただいた方が、失うものは少ないでしょう。

現代で大腸癌が増えている背景には、食生活が欧米化し、動物性脂肪などを好んで摂取をするようになったことが要因として挙げられます。予防としては、やはり日本古来のスローフードをお勧めします。かといって、素食

を好む高齢者の方でも大腸癌にかかる方もおられますので、これが絶対ではありませんが、予防はしたほうがいいでしょう。

**早期発見・早期治療の大切さ**

現段階での癌の治療法は、切除できるものは切除する、というのが原則です。今は、粘膜に局限していて、リンパ節転移を伴わないものに関しては、内視鏡での切除という方法も広く普及しております。早く発見すればするほど、お腹にメスを入れずに病変だけを取り除けますので、体への負担も少なく、社会復帰も速やかになり、その後の生活にもなんら影響を与えません。

早期の状態とは、厳密には粘膜あるいは粘膜下層に局限している状態をいいます。例えば、進行した状態でリンパ節に転移があったとしても助かる人も多いため、普段から検診をきちんと受けていただくことが何より重要だと考えていますが、異変を感じて足がすぐみ、受診を控えるようなことは、くれぐれもないようにお願いしたいところです。